



Photo by T.Munekage

母の思い出

1985年に永住帰国した宮島さんは4年後の89年、かつて同じ開拓団だった人たちと東安省密山県の開拓団の村を訪ね、住んでいた家や3年生まで通った学校を訪ねた。宮島さんの家族が住んでいた家には陸さんという中国人が住んでいた。その家には宮島さんの家族が使っていた筆筒があった。そのまま使われていたのだから、この筆筒は母の嫁入り道具で宮島さんにとっては母同然の懐かしく大切な品であった。優しく強い母の思い出と、当時大勢の家

族が賑やかに暮らしていた頃のことを思い出した。

開拓団として満州へ宮島さんは3歳の時、家族で長野県から第6次南五道崗長野村開拓団として東部国境の東安省密山県に入植した。生活にも恵まれ、学校へ行くのはとても楽しみだったという。ところが、45年、宮島さんが3年生の夏だった。ソ連軍の侵攻により地獄の逃避行が始まった。難民となり、瀋陽まで辿り着いた。飢えと寒さの厳しい難民生活の中、両親と兄弟姉妹の8人を亡くし、中国人養父母に

1935年12月1日、長野県生まれ、尼崎市在住

ちとも生き別れた。

女の子のいなかった養父母は宮島さんを優しく育ててくれた。13歳で学校に行き始めたが日本人と知られ始められて通学できなくな

った。19歳で結婚、4人の子供をもうけた。日本と中国の国交が回復したことを知り、73年、知人に教えてもらって北京の日本大使館に肉

親探しの書類を出した。すぐに2人の兄が日本に帰っていたことが判り、兄が一時帰国を勧めてくれた。

帰国へのみちのり

75年、3人の子供を連れて日本へ帰り半年滞在した。83年、自費で再び帰国し永住帰国の希望を兄に伝えたが、兄は日本での生活の厳しさを主張し、保証人になつてはくれなかった。宮島さんは仕方なく、先に帰国していた神戸の友人を訪ね

た。そこで中国に帰るまでのビザがある間働くことを勧められ、有馬温泉のホテルで住み込み、日本人といっしょに働いた。「あなたのように働く人はいない」とホテルの支配人が身元保証人にな

つてくれることになり、85年5月20日。家族5人、自費で日本に帰国した。神戸で夫と住み込みで働き、その後、尼崎に移り、市内の食肉加工会社で働いた。宮島さんは、働きながら次第に日本語を取り戻していった。

仕事の世話をするこの頃、尼崎や伊丹にも多くの残留孤児たちが帰国した。だが仕事もなく生活に困っていた。宮島さんは自分が勤める会社の社長に孤児たちの雇用や身元保証人を頼んだ。そして帰国したい残留日本人のために社長といっしょに瀋陽まで出かけたという。宮島さんの活躍で日本で暮らせるようになった人は大勢いる。

裁判に参加 通訳も02年12月、東京で中国残留日本人孤児国家賠償請求訴訟が起こされ、兵庫でも04年3月神戸地裁に提訴された。宮島さんは長野県出身の残留孤児から誘われ、原告になった。

原告の多くは日本語ができないので日本語ができる宮島さんが通訳を引き受けた。宝塚や伊丹をはじめ、神戸までも弁護士さんと一緒に20人ほど家を訪ねて通訳し、陳述書作成に協力した。デモや署名活動にも参加し、さらにマスコミに日本語で原告の気持ちや考えを伝える役割も担った。06年12月1日、ついに神戸地裁で勝訴判決を勝ち取った。この日が誕生日だった宮島さんにとって一生忘れ

る事のできない最高の日となった。勉強はまだまだ95年、宮島さんは「祖国の言葉を取り戻し、立派な日本人になりたい」と尼崎市立成良中学校琴城分校(夜間中学)に入学。その

後受験をして尼崎市立城内高等学校(定時制高校)にも通い、1人倍日本語の勉強をした。02年には高校を卒業し、とても流暢に日本語を話す宮島さんが、「勉強しないと言葉は忘れる」と、現在もコスモスの会尼崎市日本語教室に参加している。

（聞き手 田中いずみ）

凄惨な集団自決を展示で紹介

8月18日(金)から20日(日)までの3日間、尼崎市女性センター1Fにて「第22回尼崎平和のための戦争展」が開催された。映画、紙芝居、語り部による話など、多くの平和を訴える企画の中で、コスモスの会は「満州における開拓民の集団自決」をテーマに展示参加した。



Photo by T.Munekage

「戦争展」の取り組みは、9月30日(土)、共に学び戦争の悲惨さと平和の尊さを考える「中国残留日本人への理解を深める集い」への先駆けとなった。(田中いずみ)

交流の広場

初めての盆踊り！みんなであそびました 真夏の夜

8月30日(水)3時過ぎ中央公民館で、学習者がスタッフから浴衣の着付けをしてもらい、集合した20名が市バスで出屋敷前の会場に行つた。

会場では中国残留孤児等の紹介パネルを展示。コスモスの会が紹介されて、濱崎敬子さんが挨拶。ようやく踊りが始まり、最初の「炭坑節」こそ習ったけれど後は全く初めての曲ばかり。でも皆さん、



Photo by T.Munekage

地域の平和盆踊りに参加 (阪神電車出屋敷駅前広場)

臆せず見よう見まねで楽しく踊っていた。直接会場に来られた宮島満子さんは驚くほど上手い。そして彼女に着付けてもらった下平淑子さんと静養中のご主人も参加。松倉秀子さんの踊るのを見ているばかりの韓恵仁さん、後には踊りの輪の中へ入った。見知らぬ男性に浴衣姿を褒められた田中栄子さん。誰よりハイテンションで目立った前山恵美子さんなど、皆さんで楽しんで真夏の夜のイベントでした。お疲れ様ありがとうございました。また来年も！ (吉村清美)

池田市ラーメン博物館見学

10月15日(日)、池田市にあるインスタントラーメン発明記念館へ皆で見学に出かけた。

この博物館は、世界で初めてラーメンを発明した「安藤百福」さんの記念館である。館内には創始時から現在までのラーメンの展示、安藤さんの発明当時の小部屋や家具、道具などが再現されている。安藤さんが苦勞をして創りあげたラーメンの短編映画を見た後、参加者各自が、カップに自由に絵や文字を書

き、好きなトッピングをしてマイカップ麺を作った。(杉本利一)

晩秋の淡路島へ

11月21日(火) 明石海峡大橋を渡って淡路島へ出かけた。朝から好天に恵まれ、美しい海を眺めながら一路みかん園へ。

ぼかぼか陽気のみかん山

前日の冷たい小雨模様と違って、小春日和のみかん園。南斜面のみかん山では、鈴なりのみかんが食べ放題。みんな美味しそうに、楽しそうにみかんを食

文化教室の歩み

- 6月 フラワーアレンジメント
- 7月 浴衣の着付けと盆踊り練習
- 8月 地域の盆踊りに参加
- 9月 短歌教室
- 10月 ラーメン博物館見学
- 11月 名画サロン「再会また会う日まで」
- 12月 手芸・布で作るダックスフンド

最近の行事

- 9月30日 中国残留日本人への理解を深める集い
- 11月21日 交流旅行



Photo by Hi.Tamura

淡路ワールドパークで

した。昼食前だったので、1人で10個も食べた人がいた。滞在時間の40分があつたという間に過ぎた。

足湯を楽しんで淡路ワールドパークで昼食のあと三々五々園内を散策。中でも一番人気があつたのが、

『海の見える足湯』だった。目の前にあるマリンプルールの大阪湾を望みながら心地よい足湯に浸かっていると、時の流れを忘れてしまいうさだ。ここでゆっくりすると、時間切れで見どころを逃してしまふ。大急ぎでミニチュアワールド(世界の有名な建物)が1/25サイズで集合したエリア。凱旋門、万里の長城、ピサの斜塔・・・を散策した。

学習者は日頃接することのない世界の珍しい文化に触れ、有意義な時間を過ごした。(田村博志)

2018年 コスモスの会
中国残留日本人支援団体 尼崎日本語教室

新年交流会

2018年 2月10日(土) 12時30分~4時
お料理作りは9時30分から!

尼崎市立 中央公民館3F 大ホール
コスモスの会会員...500円・一般の方...1000円
帰国者と家族 コスモスの学習者は無料

みんなで 餃子も作ろう!

お料理を食べながら ワイワイ交流!

一緒に歌いましょう!

酒類の持ち込みはご遠慮ください

問合せは コスモスの会 (山本まで) 090-9042-9180